



図書委員 おすすめの本

『バケコミ！婦人記者・独楽子の帝都事件簿』
ひづき優・著（集英社オレンジ文庫）



大正時代の女性を中心として書かれている物語で、主人公は元女優で今は借金を負っている独楽子です。女優の次の仕事を探しますが、この時代はそもそも女性が働くという概念がなかったり、女性ができる仕事が限られていてなかなか見つかりません。そんな中、幼なじみの男性新聞記者から婦人記者として化け込み記事を書いてみないかと勧められます。ちなみに化け込み記事というのは記者という身分を隠して様々な職業に潜入するものです。独楽子は令嬢のダンス講師やデパートガールなどに潜入して身の周りの人を救っていきます。大正時代の流れや時代背景を気軽に知りたい人にオススメです。ぜひ読んでみてください。

☆冬季特別貸出について☆

12月10日(水)～26日(金)

上限冊数:10冊、

貸出期限:1月13日(火)まで

まとめて読めるこの機会にぜひ！

☆冬季休業中の開館日☆

12月25日(木)、26日(金) 9:00～15:45

☆貸出中の本を整理しましょう♪

○読み終えた本は、速やかに返却しましょう。引き続き借りたい場合は、延長手続きを行ってください。

○督促状が届いた3年生は、冬季休業に入る前に忘れずに返却しましょう。詳しくは、図書館までお問い合わせください。



『なれのはて』 加藤シゲアキ・著（講談社）

「手に羽を持った少年」の絵。このたった一枚の絵でこの物語は展開していく。物語の中心人物として登場するJBCのイベント事業部である守谷と吾妻は、一枚の絵で展覧会をしたいと考えるが、絵の著作権が誰にあるかわからぬため企画することができない。画の作者のヒントは絵の裏にあるISAMU INOMATAのサインのみ…。大正期から現代の日本を舞台とし、戦争・災害・人間の死などの連鎖から現代の問題を改めて見つめ直すきっかけとなるような物語。

最初から最後まで鳥肌が止まらない、今までにない運命ミステリー。そしてラストでわかる書名の意味に震えが止まらなくなるはず。どうぞ手にとって一ページ読んでみてください。きっと読む手が止まらなくなることでしょう。





図書委員おすすめの本

『夜カフェ』 倉橋燿子・著（講談社）

皆さんは「子ども食堂」に対してどんな印象を持っていますか？

私が紹介する本は『夜カフェ』という本です。この本は学校では人間関係につまずいて「ぼっち」状態。家では両親がけんかばかり。何もかもいやになった主人公の黒沢花美が家を飛び出してカフェを営む叔母の愛子さんの元で暮らすようになる所から物語が始まります。そこでハナビが始めたのはみんなでいっしょにごはんを食べる場所「夜カフェ」です。「夜カフェ」にはさまざまな思いや事情を抱えた子達がやってきて、時にはぶつかり合いながら数々の事件を乗り越えて友情を育んでいきます。そんな居場所を探してもがいていく中で成長していくハナビの中学校三年間を描いた全12巻のシリーズ本になっています。

私は「子ども食堂」とは貧しい人達のためにご飯を提供する場所だとしか思っていませんでしたが、子どもが一人で食事をとる「孤食」の解消や子どもの居場所づくりとしての役割もあるのだと、この本を読んで知ることができました。ご飯は一人で食べるよりも家族や友人と一緒に食べるほうが、より美味しさが増していくと感じるので、ぜひこの本を読んでご飯を食べる時間を大切にしていってほしいと思います。

『手紙屋（螢雪篇）』 喜多川泰・著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

この本は主人公の高校2年生の和花が「手紙屋」との10通の手紙を通して大学進学や就職、自分の将来について考えていく話です。少しだらしない生活を送っていた和花はお金がなくなってきたことで「アルバイトをしたい」と両親に言いますが、反対され、そのことをきっかけに和花と父はあまり話さなくなってしまいました。そんなある日、「手紙屋」という謎の人物から和花の元に手紙が届き、その日を機に和花は手紙屋と文通を始めます。文通を重ねていくうちに生じる和花の勉強や大学、就職、将来に対する考え方の変化もこの本の見どころです。父がアルバイトに反対した本当の理由、和花の高校卒業後の進路、そして「手紙屋」の正体について気になった人はぜひ読んでみてください。また勉強に対する考え方を変えたい人、進路について悩んでいる人もぜひ読んでみてください。



『タカラモノ』 和田裕美・著（双葉文庫）

選んだ理由は、この本に出てくる親子である「ママ」と「ほのみ」の二人の成長していく姿にとても感動したからです。主人公であるほのみのママは、夜のバーで働いており、帰りが遅くなってしまうことが多く、ほのみは学校で友達や友達のママからも「かわいそうな子だ」と言われていました。それを家でママに伝えたところ、「幸せになりたいんやったら、誰かのせいにしたらあかん。」と言われ、ほのみが涙を流すシーンがあるのですが、そこがとても感動するシーンで、私も涙が出そうでした。そしてこの本は、2016年発刊で、ほのみの弱気になってしまう時に、ママからの熱い言葉がとても感動的なお話なのですが、今の若い人たちにもぜひ読んでほしい一冊です。私も落ち込んでいる時によく読むので、これからもほのみママの名言を聞いて頑張りたいです。



『浅草鬼嫁日記 あやかし夫婦は今世こそ幸せになりたい』 友麻碧・著（富士見L文庫）

鬼の姫“茨木童子”だった前世をもつ茨木真紀が、同じく“酒呑童子”だった前世をもつ天酒馨と、前世からの仲間とともに浅草で幸せになるためにがんばる話です。ストーリーが面白いし、恋愛要素もあつたりしてとても読みやすいので、読書が苦手な人でも1ページ見ただけで世界観に引き込まれ、すぐに読めると思うのでおすすめです。特に「前世」や「あやかし」というような言葉が好きな方は絶対にハマると思います。全11巻と読みやすく、集めやすい巻数だと思うので、ぜひ読んでみてください。

『傲慢と善良』 辻村深月・著（朝日新聞出版）

この本は、恋愛ミステリーの本で結婚や人間関係について書かれている…ではどのような内容なのでしょう。まず初めに主人公の西澤架とその婚約者である坂庭真実という女性がいるのですが、その女性が突然姿を消してしまう、そんなことから物語が始まります。それではなぜ私はこの本を紹介しようと思ったのでしょうか。理由は2つあります。一つ目は書名にある傲慢と善良について細かな人間関係を元にその意味について理解していくようになるからです。主人公の架は突然消えた真実を探すために義実家や彼女の姉の家など様々なところに行き、その中で彼女本当の姿や人間の考え方などを知るなかで、日常生活にある傲慢や善良を感じるようになります。二つ目は自分の「生き方」を見直すきっかけを与えてくれている気がするからです。この本を読んで人には様々な考え方があり、恋愛や結婚だけでなく、どう生きていくかについても悩まされたりします。この本の言う傲慢、善良とは、そして突然消えてしまった真実はどうなったのでしょうか。どうやらこの本は図書館にもあるらしいので、一度読んでみてください。